

伊予市

じんけん教育

2008 No. 7

一人一人の人権が尊重される、明るい伊予市をめざして

編集・発行／愛媛県人権教育協議会伊予市支部・伊予市教育委員会（〒799-3113 伊予市米湊768番地2 ☎089-982-5155）



すずしいな

大平地区は、山に囲まれ緑豊かで、小川のせせらぎ、小鳥のさえずりが絶えない自然豊かなところです。しかし、大平地区でも核家族化が進み、子どもたちは家の中で過ごすことが多く、自然に触れるような直接体験を通し、感動を味わうことは少なく なっています。

そこで、園では機会をとらえて近隣の園外へ出かけ、季節の自然や地域の人々と触れあうことを通して感動する喜びを味わいながら、よき体験を重ねて、大人になっても故郷を愛せる子どもたちを育てていきたいと願っています。そこではぐくまれた感性は、不合理な差別への気づき

豊かな感性をはぐくむ
 豊かな自然と温かい地域の人々に接しながら

おおひら保育所

五月晴れの日、裏山の竹林に出かけました。神秘的な竹林の雰囲気を感じました。地面のあちこちからとんがり頭をのぞかせ、子ども達の背丈ほどに伸び、洋服を脱ぎかけた竹の子を見つけ大歓声があがりました。所有者に了解を頂き、一本の竹の子をみんなで協力して担いで帰りました。園のままごとで竹の子料理をしながら感触や香りも楽しみました。

帰り道では、園で飼育しているうさぎ、「パンちゃんにおみやげをもって帰ろうかね」の保育士の呼びかけに、子どもたちは葉っぱを選んで摘みとりました。持ち帰った葉っぱをおいしそうに食べる姿を



竹の子料理いかがですか

つながっていくと信じています。

また、園の職員の豊かな人権感覚のもとに子どもたちへの意図的な働きかけで、幼児期の心を揺さぶる体験をさせながら、人間性の基礎を培う「気づくころ」を今後も大切に育てていきたいと考えています。

うれしそうに眺めている子どもたちの姿は優しさが溢れていました。

七月、園が行う夏祭りに、地域の更生保護女性会のお手伝いをいただき、かき氷やお宝すくいを楽しみながら、交流ができました。小学生や先生方も大勢参加してくださり、保護者にとっても地域との交流のいい機会となりました。地域の皆さんにも交流の場として喜んでいただきました。交流の機会を通して、地域の人々に支えられ、見守られていることを実感し、皆さんの温かさに包まれて、園児たちにも豊かな感性がはぐくまれたと確信しています。



かき氷ください

人権・同和教育への取組

― 出会い・発見・発見・生き方に学ぶ ―

伊予市立北山崎小学校

人との出会いは、自分自身を見つめ直すきっかけを与えてくれます。今回は、四年生の総合的な学習の時間「出会い・発見」の取組を紹介します。

最初にビデオを見ました。白い杖を持って街を歩く一人のおじいさん。聞こえてくる街の音に耳を澄ませ、そこから湧いてくるイメージを元にギターを弾いて次々とすてきな歌が作られていきます。シンガーソングライター後藤益男さん。二歳のとき網膜腫瘍で両眼を失ったため、今は全く見る事ができません。音楽が大好きな後藤さんは、ギターを携えさまざまな施設を訪問し、歌やダンスを通して人々に元気を配達するボランティア活動に取り組まれています。

そんな後藤さんが松山に住んでいることを知った四年生は、どうしても後藤さんに会いたいと思いましたが、お願いの手紙を書くという事になったのですが、自分たちはまだ点字を知りません。そこで、みんなの声をカセットテープに録音して届けようという事になりました。

数日後、後藤さんから返事が届きました。点字の手紙をみんなで解読してみました。



〈向井原駅にて〉

後藤さんを駅から学校までどうやって案内したらいいんだろう。周りの様子を言葉で説明したら、北山崎の様子がよく分かるんじゃないかな。四年生は後藤さんの立場に立つて考えた多くのことを実行することができました。

きたやまさきしょうがつころ
よねんせいのみなさんへ
みなさんのこえをきいて、すぐくげんきな
パワ―だとびっくりしましたよ。ほくもフ
アイトがわいてきました。ろくがつころの
のあさじゅうじみんじゅうじつぶんにおか
いばらえきにつくきしやていきます。おも
いきりたのしくべんきょうしつたい、おど
りましよう。
ごとうますあ



〈ふれあいコンサート〉

本校では、今後もさまざまな人々との出会いを通して、相手の立場を理解する力や自分自身のよい生き方を見つける力をはぐくむための活動を大切にしていきたいと考えています。

『人が優しいまち』
作詞・作曲 後藤 益男
自転車走らない 車が横切らない
そんな歩道を 歩いてみたい
ぶつかる物もない 落ちる下水もない
そんな道路を 歩いてみたい
だから ほんの少し ほんの少し
手をかしてくれるだけでいい
ほんの少し ほんの少し
あなたの優しさほしいから

「ぼくは後藤さんにあつてすぐ発見がありました。後藤さんは、ぼくらを心で見ていると思いました。ぼくは、人を助けることにしました。ぼくは、自分が変わったと思います。」(児童の感想より)

愛媛県人権教育協議会伊予市支部総会

2008(平成20)年 6月5日(木) 伊予市市民会館

例年にも増して多くの皆さんが参加し、本年度の支部総会が開かれました。上田支部長は、あいさつで、「人権の世紀と言われている現在、人類の幸福が実現するという願いが込められています。同和問題をはじめあらゆる人権問題の解決をめざし、人権文化の創造と人権が尊重される社会づくりを実現するためには、私たちの社会や日常生活そして、生き方そのものが人権と深く結びついていることを一人一人が自覚し、生活の中に主体的に人権教育に取り組んで行かなくてはなりません」と述べ、「そのためにも、本協議会伊予市支部の本年度の活動の充実に皆様の御協力をお願いします」と、結びました。ついで、総会行事に移りました。



〈総会風景〉

支部活動の基本方針、事業計画、予算の審議を行い、満場一致で承認されました。引き締まった総会でした。そして、役員改選を行って総会を終えました。

《記念講演》 「私らしい生き方、 あなたらしい生き方」

愛媛県人権啓発指導員 友田 義一さん

自己紹介の後、講演に移りました。内容は多岐にわたりましたが、その中のいくつかを紹介いたします。

まず、「最近の人権問題から」無知が差別を生む」という観点で、熊本県黒川温泉の某ホテルが「ハンセン病歴」を理由に宿泊を拒否した事例を、当時の新聞記事も参考資料にして話され、「廃業という形で営業をやめたのでは謝罪にはなりません。偏見や差別を広げた責任を認識せず、逆に放棄していることになりません。企業としての社会的責任を果たしていない結果です」と、話されました。

ついで、意識して差別している行為として、インターネット上で誹謗中傷する書き込みと地名総鑑が流れた話がありました。裏サイトに流れるひどい実態についての紹介もありました。差別は命までも奪う事例も話されました。「人間が大事にしなければならぬものは、『愛と命』であり、この『愛と命』が揃って人間は幸福と言えるのであり、これが人権です



〈講演風景〉

よ」と、おっしゃいました。そして、「①戦争②公害③差別はこの大切な人権を奪ってしまいました。皆さんには十分お分かりいただけることです。歴史がそのことを物語っていますね」と、いくつかの事例を加えて話されました。

続いて、障害者について話されました。「社会的に弱い立場の人、とりわけ障害者への差別がひどい時が過去にはありました。人権侵害の表現が、会話の中に使われました。障害の状態を加えた言い回し、いわゆる『からかい』がありました。こんな社会が過去にはありましたが、人権・同和教育の取組で、今は改善されました」とも話されました。さらに、「人間には、基本的な人権が保障され、平等な自由として、次の四つが認められなければならない。それは、①教育の機会均等、②職業選択の自由、③結婚の自由、④住居移転の自由です。これが十分保障されないところに、差別が発生するわけです」と、それぞれの内容について、分かりやすい事例を入れながら話されました。

そして、終わりの段階で、結婚の自由が認められなかったために起こった悲しい事例の話がありました。「娘さんの親は、娘の結婚に反対し、誕生した孫にも会ってくれませんでした。その孫が事故で亡くなりましたが、孫の葬儀にも出なかつたのです。不幸は続き、娘さんも心労と悲しみで、自殺してしまいました。その葬儀に親は列席し、涙を流した」という実際にあった話をされ、「差別したことが自分の娘の命まで奪ってしまふ。そんな形で親にはね返って来た」という悲惨な事例でした。「自殺者が、年間三万人以上いますが、表には出ないまでも、この娘さんのような人を出さない社会をつくらなければなりません」と、結ばれました。



〈開会行事・全体会風景〉

第五十五回 四国地区

人権教育研究大会に参加して

二〇〇八(平成二十)年六月十九日(木)・二十日(金) 高知市

◆感想文紹介◆

「第五十五回 四国地区 人権教育研究大会に参加して」

「四国はひとつ」の合言葉のもと、五十五回目を数える伝統のある研究大会です。同和問題をはじめさまざまな人権問題の解決を目指して、研究と実践に取り組み着実な成果をあげてきました。しかし、まだまだ残る差別問題と人権侵害に対して、これまでの同和教育の成果と手法を大切にしながら、人間の尊厳と人権の確立を目指し、今後の人権教育のあり方と、さまざまな人権問題を解決する実践の道筋を求めた研究大会でした。

大会資料に「差別の現実から深く学ぶ」という言葉があります。一人一人の子どもと向き合い、どのような暮らしの中で育ち、学校に来ているのか、また、親や地域の人々の生きざまやそれを通して刻まれた思いや願いは何なのかという事実を学び、そこから教育に取り組んでいく営みを「差別の現実から深く学ぶ」と表現しています。

その言葉のとおり、私が参加した分科会では、報告者から、自分の親が差別に対する誤った考え方をもっていることを涙ながらに話されました。「差別をする心をもったままの人間でこの世を去って欲しい」との思いから、同和教育について二人で語る日々が始まったそうです。この発言をきっかけに会場から次々と質問や自分の取組を発表されて、多くの方の思いや願いを聞くことができ、会場全体が一つになった感じがしました。私は、幼稚園に勤務しており、三歳から六歳までの子どもと接しています。子どもたち一人一人のもつ成長・発達の可能性を最大限に伸ばし、人間として豊かにたくましく生



〈三町太鼓 「朝倉三町子ども会」の活動〉

きていくための基礎を培う重要な時期です。人権を確立するための保育支援は常に心がけているのですが、同和問題をはじめとして、あらゆる差別の解決を自らの問題として受け止めていたかどうかと考えたとき、また年齢の低い子どもたちだからと、どこかで切り離していた自分がいることに、この大会で気づきました。まず、自分自身が人権問題を自らの課題としてとらえ、解決していこうとする気持ちを持ち、人とのつながりを大切にしながら、これからの保育にあたっていききたいと思います。この大会に参加させていただき、伊予市から一緒に参加された方々と交流を深めることができました。日常の勤務では体験できない研修ができました。ことに感謝しています。今後の職務上や生活の場で今回の研修を生かしていきたいと思えます。

平成20年度 双海地域ふれあい懇談会



〈意見に耳を傾ける参加者のみなさん〉

双海地域のふれあい懇談会が、八月より各地で行われました。

昨年より、ワークショップを中心とした学習から、ビデオ視聴を行い、意見交換する学習方法に変更し、今年度は上灘地区一箇所、下灘地区は全集落にて開催し、多くの方が参加されました。

この懇談会には、地区内の小・中学校の先生方も出席し、各学校での取組について詳しい説明がなされ、参加者が理解を深めました。

また、伊予市が推進している「身元調査おことわり運動」についても説明し、お互いの重要性について理解をいたしました。

双海地域では、三十年余りふれあい懇談会に取り組んでおり、さまざまな意見や質問が出され、大変有意義なものとなりました。

講座の様子・参加者の感想



〈よく分かった講義〉



〈自己紹介中〉

同和問題をはじめ、さまざまな人権に関する諸問題について、いろいろな面から考え、人権が大事にされる地域づくりを考えながら、時にはリーダー的立場で活動していただく人材(オピニオンリーダー)の養成を目標にした本講座も、今年は十期目を迎えました。正しい世論が地域に広がるように頑張ってください。今年、六月五日から七月三日まで、五回の講座



〈ワークショップ=誕生日順にしゃべらず主体的に移動して並ぶ〉



〈差別への憤りを持つことが大事と強調〉

を五名の講師が担当して、講義や参加体験型のワークショップ、また、ビデオ教材等で研修を重ね、自分の偏見や差別心を払しょくし、人権感覚を磨いていく研修を積みました。初日には、研修仲間として、お互いが知り合うために、自己紹介や研修への思いなども語りあいました。五回の研修で、自己の目標に一步步近づき、お互い充実した気持ちを抱きながら、今回の講座を終えました。

★参加者の声・感想
講座を受けて、自分を見つめ直すことができました。言った人は覚えていない言葉でも、傷ついた相手はいつまでもその言葉が心に残ります。内なる自分の差別意識をなくしていかなければなりません。この講座を受講し始めてからは、家族間でも人権問題について話す機会が増えました。
★ワークショップの学習で、人権について他の人の意見が聞けて、大変勉強になりました。街中の様子をしっかりと観察してみると、人権にかかわる多くの課題があることに気づきました。そのことを認識し、改善して行かねばならないと思いました。気づいたら実行に移せる自分になりたいと思います。



〈傍観者では差別は無くならない〉



〈部落差別解消の歴史について研修〉

第10期オピニオンリーダー養成講座

ワークショップ ちがいのちがい



自分たちの生活の周辺に次のような場合、どう考えますか？
○△×を入れてみましょう。また、どうしたいと思いますか。

○：あってよい △：どちらともいえない ×：あってはいけない



男子は○○君で、
女子は○○さんと呼ぶ。

あなたはどう考えますか。

他人を呼ぶとき、性別によって君・さんの使い分けをすべきか、どうか。いろいろな考え方がありましようが、…。話題にしてみませんか。

あなたはどう考えますか。

夫は職場で働き、
妻は家庭を守る。

男性だから、女性だからという理由で型にはめていいのでしょうか。いろんな考え方があると思いますが、話題にしてみませんか。

第10回「人権を考える市民の集い」の開催

多くの人のご参加をお待ちしています

と き 平成20年11月3日(月) 9:00~12:00

と ころ 伊予市市民会館大ホール(入場無料)

記念講演 演 題 / 「人の世に熱と光を！」

講 師 / ^{きよ}清 ^{はら}原 ^{りゅう}隆 ^{せん}宣 さん

【講師略歴】

- ◇1952年 奈良県御所市柏原北方西光寺に生まれる。
- ◇1975年 大阪府富田林市立第一中学校に勤務。
- ◇1978年 奈良県御所市立大正中学校に転勤。(～2006年3月)
- ◇1984年 御所市同和教育研究会事務局長(専従)に就任。
- ◇1987年 御所市同和教育推進協議会事務局長に就任。
- ◇2003年 同和教育実践会事務局長。

